臨時東海財界倶楽部例会を開催

ベテラン政治記者が漂流する政局を読み解く

開催日：2024 年 11 月 11 日　開催場所：ホテルオークラレストラン

星野 典久氏

与党が過半数割れとなり、政局が流動化する中、臨時の東海財倶楽部が 11 月 11 日正午から、名古屋市東区のホテルオークラレストランで開催された。講師は本誌で「政界ワイドビュー」を連載中の朝日新聞政治部、星野典久氏。星野氏は安倍、菅、岸田の３首相在任時に官邸キャップを務めたベテラン政治記者。「衆院選で与党過半数割れ！第２次石破茂政権発足も　毎日が剣が峰」と題して衆院選の結果分析と政局の行方について各種データを示しながら解説。第２次石破内閣発足当日のタイムリーな講演となり、出席者は熱心にメモを取るなどして耳を傾けていた。

総裁選では予算委員会で有権者に判断材料を示してから解散する意向を示していた石破氏が総裁就任直後に解散を表明。これついて星野氏は「自民党本部は岸田氏の総裁選不出馬表明を受けて対応を検討。小泉進次郎氏が総裁に選出されると読んで、即解散する方針だった。ところが、高市早苗氏と石破氏の決選投票となり、党本部はシナリオが狂い、大慌て。石破氏に流れが決まっても早期解散は既定路線として押し切った」と話す。

衆院選で自民は、裏金や旧統一教会問題で逆風に遭ったが、投票日（!0 月 27 日）の 10 日前、毎日新聞や読売新聞などは「自公過半数維持の公算大」を報道。ところが、投票日の 4 日前に「裏金非公認に 2000 万円」と公認者と同額を自民党が助成していたことが発覚。これを機に一気に自民への大逆風が吹き荒れたと指摘。そして結果は自民が大敗。政党別の比例得票数では前回（2021 年）に比べて自民がマイナス 26.77％減。立憲民主は 0.64％プラスにとどまり、国民民主が 137.97％プラス、れいわが 71.74％プラスなどとなった。キャスティングボートを握った国民民主について星野氏は「国民民主は裏金の自民は嫌だが、立憲も好きではない層の受け皿になった。自民とは政策連携で合意した事実上の部分連合。国民民主の玉木雄一郎代表は自民に近づきすぎずに果実をとった」という。

タイムリーな講演に耳を傾ける出席者の皆様

与党が衆院選で過半数割れしたのは 1953 年の吉田茂内閣から 94 年の羽田孜内閣まで 6 回、石破内閣が 7 回目。現在の衆院定数は 465 で、過半数は 233 議席。衆院会派「自民党・無所属の会」に与党系無所属 6 人（裏金議員 4 人を含む）が合流し、計 197 人に。公明党の 24 人を合わせても与党は計 221 人で過半数まで 12 人足らず、石破内閣は講演名通り「毎日が剣が峰」。

政治日程は、12 月にかけて 2024 年度補正予算案を閣議決定して国会に提出。25 年度当初予算案、税制改正大綱を閣議決定。25 年 1 月に通常国会召集。夏には参院選と都議選が行われる。

今後の政局について星野氏は「来年の参院選に向けて野党は自民への対決姿勢を強めており、政権が行き詰まって大混乱も。当初予算成立後に自民党内でも〝石破おろし〟が始まる可能性がある。参院選で野党が躍進すれば自公政権は危機に直面。ドイツのナチスは民主主義的なプロセスを経て台頭。また、再選されたトランプ米国大統領は日本に関税を迫る可能性がある」とし、「日本でも保守、リベラルの極端なポピュリズムが支持を集める傾向がみられる。有権者の良識を信じるが、民主主義は油断すると独裁者を生むことを歴史が教えている。警戒すべきだ」と述べ、講演を締めくくった。

佑愛学園丹羽司一理事長が乾杯の音頭（懇親会で）